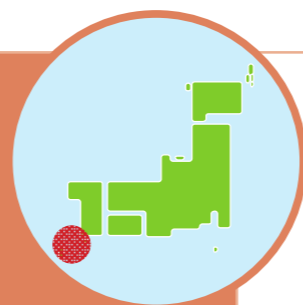


生きものたちで賑わう 奄美の森を目指して!

～奄美マングースバスターズとともに～



ゆわんだけ 国指定湯湾岳鳥獣保護区

世界自然遺産候補地「奄美・琉球」の核心地域のひとつ、奄美大島。亜熱帯照葉樹の森はアマミノクロウサギなど多くの野生生物を育み、最高峰の湯湾岳（694m）の山頂部一帯は国指定鳥獣保護区となっています。しかし、30年ほど前に外来種のマングースが放されたことにより森の生態系は一変、生物多様性の危機に直面しました。環境省では、マングース対策のため「奄美マングースバスターズ」を組織し、外来生物法に基づく防除事業を行っています。組織的かつ地道な作業の結果、目標とする「奄美大島からのマングースの完全排除」、その先の「豊かな生物多様性の回復」に向け、着実に歩みを進めています。

1. 奄美大島の豊かな生物多様性

鹿児島から南におよそ400km、面積712km²の奄美大島。島を覆う国内最大規模の亜熱帯照葉樹の森には、年間降水量3,000mmにもおよぶ雨が降り注ぎます。恵みの水にたたえられた湿潤な森は、大陸との結合・分離を繰り返した地史も反映し、多くの固有種を育んできました。アマミセイシカやアマミエビネ、サガリランなどの植物は一年を通じてあちらこちらで咲き誇り、アマミノクロウサギやアマミトゲネズミ、ルリカケス、アマミイシカワガエルなどの動物は昼



アマミエビネ
(*Calanthe amamiana*)



アマミノクロウサギ
(*Pentalagus furnessi*)



亜熱帯照葉樹の森



アマミイシカワガエル
(*Odorrana splendida*)

夜を問わず森を賑やかにしています。

2013年1月、このような奄美大島のすばらしい自然を人類共通の宝として将来に引き継いでいくため、「奄美・琉球」を世界自然遺産の登録候補地とすることが決まりました。環境省では、世界自然遺産登録を目指して、国立公園の指定や希少種の保護、外来種対策など様々な取組を関係者とともに進めています。

2. マングースの侵入と被害

ファイリマングースは、もともと南アジアに広く生息する哺乳類ですが、1910年、ハブなどの駆除を目的として沖縄島に放されました。奄美大島には、1979年に30頭が放されたとされています。しかし当初の想定とは異なりマングースはハブの天敵とはならず、代わりに奄美大島に生息する多くの動物を捕食することになってしまいました。マングースは分布域を広げ、ピーク時には10,000頭まで増えたと推定されています。



外来生物法の「特定外来生物」に指定されている
ファイリマングース (*Herpestes auropunctatus*)

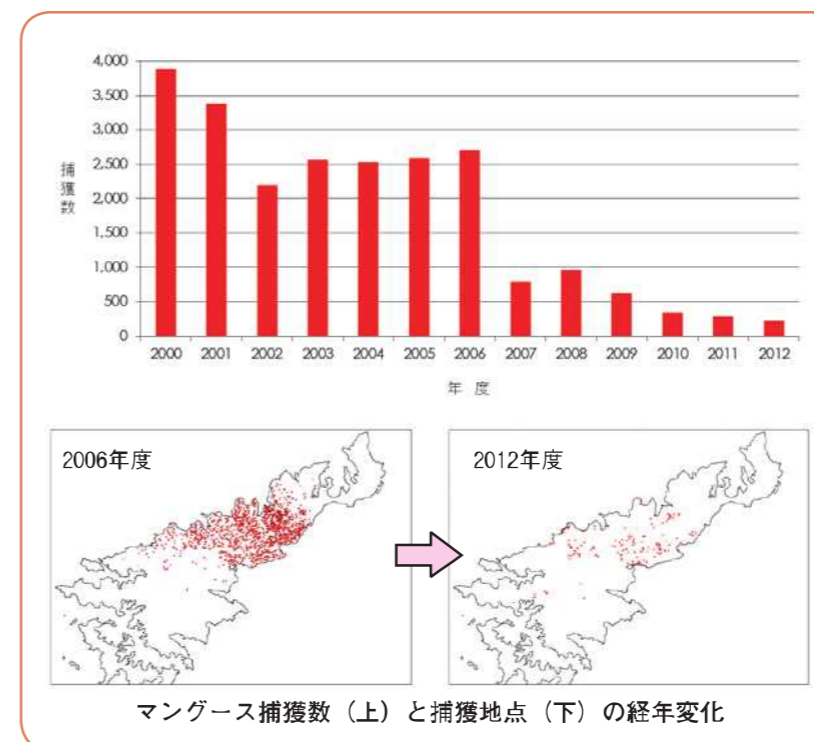
3. 組織的なマングース対策

環境省は、2000年に奄美大島で本格的なマングース駆除に着手し、2005年からは「奄美大島からのマングースの完全排除」を目標に、外来生物法に基づく防除事業を進めています。この事業の中心を担うのが、マングース捕獲のための専門チーム「奄美マングースバスターズ」です。山中に計画的に設置された30,000個を超えるマングース捕獲わなの点検、自動撮影カメラによるマングース生息情報の収集、マングース探索犬によるきめ細かな探索など、組織的な防除を進めています。

マングース防除事業が始まって9年目を迎える現在、このような日々の根気強い取組が実を結び、マングースの完全排除に向け着実な成果が現れています。マングースの捕獲数は年々減少し、その生息数は300頭程度と推定されるまでになりました。分布

域も狭まり、局所的な排除が達成されつつある地域も出てきています。マングース探索犬は、マングースが極めて少なくなってきた中で効果的な捕獲に大きく貢献しています。最近では、マングースの減少に伴って、アマミノクロウサギやアマミトゲネズミ、カエル類など外来種の回復も確認されるようになりました。

このような成果を踏まえ、2013年に「10年後までの奄美大島からのマングースの完全排除」を目標とした新たな防除実施計画を策定しました。奄美大島ほど大きな島でのマングースの完全排除という快挙は、世界的にも例がありません。完全排除までの道のりは険しいですが、奄美マングースバスターズとともに一歩一歩、着実に歩みを進めていきます。奄美の森が、本来の生きものたちで賑わうときを目指して。



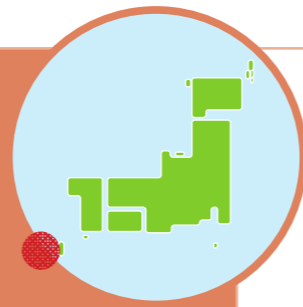
奄美マングースバスターズ



わなの点検作業

陸域と海域の一体的保全に 取り組む国立公園

～西表島～



西表石垣国立公園・崎山湾自然環境保全地域

沖縄県の西表島は面積289km²と沖縄本島に次いで沖縄県で2番目に大きい島で、島の90%は比較的自然度の高い亜熱帯照葉樹林に覆われています。浦内川や仲間川の源流部には原生的な森林が残り、下流の汽水域には、広大なマングローブ林が発達しています。西表島固有のイリオモテヤマネコをはじめとして、島全体が希少な動植物の生息地となっています。河口部には干潟が形成され、海岸はリーフが発達して良好なサンゴ群集が保たれています。これらの風致景観の保護管理のため、陸域から海域にかけての一体的な保護を図り、陸域での希少動植物種の保護・外来生物対策や、海域でのサンゴ礁生態系の再生・オニヒトデ対策の取組、全域でのエコツーリズムや利用適正化などを統合的にすすめるため、国立公園の拡張と保護対策を進めているところです。

1. 西表島の陸域の自然

日本最後の秘境といわれる西表島は島の約90%がイタジイやオキナワウラジロガシなどの亜熱帯性常緑広葉樹林に覆われています。河川の汽水域には広大なマングローブ林が広がり西表島特有の風景を作り出しています。動物については西表島固有のイリオモテヤマネコを代表として、国の特別天然記念物に指定されているカンムリワシ、そのほかにもリュウキュウキンバトやヨナグニカラスバトなど日本では琉球南部にしか生息しない動物が数多く生息しています。海岸地域では、点在する砂浜の多くがウミガメ類の産卵地となっているなど、島全体が貴重な動植物の宝庫となっています。

こういった日本でも数少ない亜熱帯の生態系と独



仲間川とマングローブ林

特の風景を保全するために、西表島の中心部やその周辺が国立公園に指定されています。また、イリオモテヤマネコの保護増殖事業を行うなど、西表島の生態系の保全に取り組んでいます。

2. 西表島の海域の自然

日本で最大規模のサンゴ礁海域である石西礁湖は豊富な造礁サンゴや熱帯魚などが見られ、なかでも島の西端に位置し、北西に開口する崎山湾の湾口部一帯の海域は自然環境保全法に基づく自然環境保全地域に指定されています。本地域は、亜熱帯に属し、黒潮の影響を受けて海水温が高く、また、周辺の陸域に人工物が全くなく人為の影響が少ないため海水が清澄で、イシサンゴ類やウミトサカ類等が見られ



崎山湾のサンゴ礁

るサンゴ礁が発達し、豊富な海中生物相を有しています。特にサンゴ礁の外縁斜面には、アザミサンゴの大群体が多数存在し、その中の最大のもは、世界最大の群体といわれており、学術的にも貴重です。このように本地域は、全域にすぐれた海中生物相を有し、また、人為の影響をほとんど受けていない自然性の高い海域となっています。

3. 保全に向けた取組

西表島における国立公園地域には、イリオモテヤマネコが多く生息すると考えられている海岸線の低地などは指定されていませんでした。しかし現在、山、川、海とのつながりを大事にして西表島全体を



西表野生生物保護センター

国立公園に指定する国立公園計画の見直し作業がすすめられています。これにより、亜熱帯樹林やイリオモテヤマネコの生息地の更なる保護を図ります。また、陸域の国立公園を拡張するとともに、現在自然環境保全地域に指定されている崎山湾を含め、隣接する網取湾までを指定地域に拡大する作業もすすめています。網取湾にはアミトリセンベイサンゴなどの固有種が生息しており人為的な影響が最も少ない海域の保全をすすめることとなります。もちろん、保護と利用の両立を図るための整備やルールづくりも並行してすすめています。

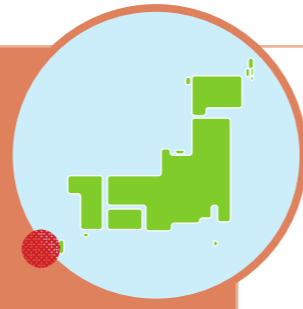
豊かな森でつくられた栄養素が海へ運ばれることで豊かな海をはぐくみます。また、豊かな森はサンゴの生育を妨げる赤土の流出を防ぐことにもつながります。さらに、川、マングローブ林、干潟と海といった、つながりのある原生的な自然景観が保全されることも大事です。

今後も、西表島に残された貴重な生物多様性や景観を守るために、陸域及び海域の一体的な保全のための取組を進めていきます。



イリオモテヤマネコ
(*Prionailurus bengalensis iriomotensis*)

石西礁湖におけるサンゴ礁生態系再生の取組



いりおもていしがき 西表石垣国立公園

日本で最大規模のサンゴ礁海域である石西礁湖では、近年、様々な環境要因によりサンゴ礁生態系が衰退していることから、その生態系を回復するための自然再生の取組が進められています。2006年には100を超える地域の様々な関係者が参加する石西礁湖自然再生協議会が設立され、それぞれの課題に対して部会やワーキンググループを設置して、各主体が連携し、海域でのオニヒトデ駆除や、陸域からの負荷軽減のための赤土流出対策など、海域と陸域を連携させた総合的な自然再生の取組が進められています。

1. 石西礁湖について

石垣島と西表島の間広がる海は「石西礁湖」と呼ばれる日本で最大規模のサンゴ礁海域で、我が国では珍しい準堡礁型のサンゴ礁が発達しています。石西礁湖を含むこのサンゴ礁海域は、世界的に見ると高緯度地域にありながら黒潮などの影響で多くの種類の造礁サンゴ類の生息が記録されており、国際的にも重要なサンゴ礁海域といえます。

サンゴ礁は非常に多様な生物を育む生態系であり、豊かな漁場としての役割や、サンゴが長い年月をかけて形成した遠浅の地形による防波堤効果など、多くの恵みを地域の生活にもたらしてくれます。また、その美しい景観やマリレジャーなどを楽しむため、毎年多くの観光客が西表石垣国立公園に足を運んでおり、観光業も無くてはならない地域の大きな産業のひとつとなっています。



石西礁湖のサンゴ礁（加屋真島沖）：このような美しいサンゴ群集がみられるエリアは限られてきている。

大きな産業のひとつとなっています。

2. サンゴ礁生態系の衰退

40年前（1972年）の国立公園指定当時と比較すると近年、サンゴの分布面積は確実に減少してきており、そのサンゴ礁生態系は大きく衰退しているといえます。主な原因としては、①夏場の高水温によるサンゴの白化現象、②オニヒトデの大発生、③開発工事や農地から出る赤土や生活排水等の流入といった陸域からの負荷による影響などが挙げられます。サンゴ礁生態系は、サンゴのみならず、サンゴが長い年月をかけて作り出した地形であるサンゴ礁に生息する生物や、水などの無機物を含めた環境の総合的な循環系であることから、かつての豊かな海を取り戻すためにはこれら生態系の一体的な保全・再生が必要となります。



環境省が実施している海域モニタリングの様子

3. 協働による自然再生の取組

このような状況の中で、2006年に「石西礁湖自然再生協議会」が発足しました。この協議会は、多様な主体が参加し連携して協議を行うことで、対象地域の再生を図ることを目的とした自然再生推進法に基づく法定協議会です。2007年には各主体の合意に基づき「石西礁湖自然再生全体構想」の中で、石西礁湖周辺海域を再生させるための長期目標と短期目標を定めています。

- ・長期目標（達成期間：30年）：「人と自然との健全な関わりを実現し、1972年の国立公園指定当時の豊かなサンゴ礁の姿を取り戻す。」
- ・短期目標（達成期間：10年）：「サンゴ礁生態系の回復のきざしが見られるようにする。そのために環境負荷を積極的に軽減する。」

協議会は、地域の関係者を中心に、漁業協同組合、ダイビング事業者、観光業者、農家、研究者、民間企業、竹富町、石垣市、沖縄県、内閣府、環境省など多岐にわたっており、その数は100を超えています。上記の目標を達成するために、協議会では「生活利用に関する検討部会」や陸域対策、海域対策、普及啓発、学術調査の4つのワーキング

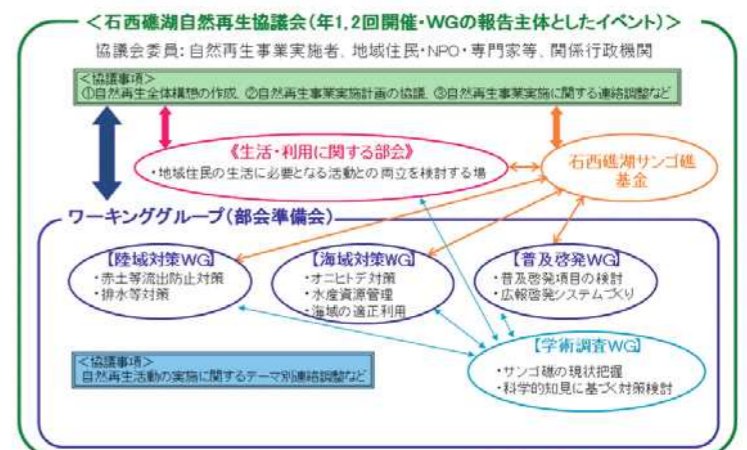


石西礁湖サンゴ礁基金による地元のまつりでの普及啓発・広報ブースの様子

グループが組織されています。また、2013年には募金などにより各活動を資金的に支援する「石西礁湖サンゴ礁基金」がNPO法人化されました。

具体的な取組としては、赤土流出や排水による負荷軽減の陸域対策、各実施者で定めた分担箇所を実施するオニヒトデ駆除、禁漁エリアの設定などの水産資源管理、持続可能な利用とサンゴ礁保全・再生に対する理解の推進、衰退の原因・対処方法の調査研究・検討など多岐にわたっており、地域主導により、それぞれの役割に応じた協議・活動を実施しています。環境省は、内閣府沖縄総合事務局と共に協議会の事務局を担当しているほか、各取組の基本情報となる海域モニタリング調査や、サンゴへの負担が少なく生物多様性の維持できる手法を用いたサンゴ移植事業の他、オニヒトデ駆除、普及啓発事業などを実施しています。

協議会の体制



→地域主導で運営

自然に育まれた 文化の保存と継承

～竹富島～

いりおもていしがき

西表石垣国立公園

沖縄県の竹富島は日本最大級のサンゴ礁海域である石西礁湖に浮かぶ周囲約9km、住民350人ほどの小さな島で、島全体が国立公園に指定されています。歴史が残るまちなみは、文化財保護法に基づく重要伝統的建造物群保存地区に選定されており、また、島の人々は国の重要無形民俗文化財に指定されている島の伝統行事「種子取祭」など、祭事行事を特に重んじています。環境省では亜熱帯特有の自然に育まれた島の文化の保存と継承のため、島内にビジターセンターを整備し、自然環境の保全と伝統文化の保護の融合を島のNPOと協働で取り組んでいます。

1. 竹富島の自然と文化

沖縄県八重山諸島に位置する石西礁湖は東西20km、南北15kmにもなる日本最大級のサンゴ礁海域で、全域が西表石垣国立公園に指定されています。竹富島は石西礁湖のサンゴ礁が隆起してできた周囲9.2km、人口約350人の小さな島です。八重山の玄関口である石垣島から高速船で約10分という立地条件の良さから、多くの公園利用者が訪れる観光地となっています。島の特徴は白砂の道と琉球赤瓦の屋根で統一され、古いたたずまいを残す伝統的集落景観と、国立公園の海域公園地区に指定されているコンドイ浜やカイジ浜などの海域景観です。特に古琉球の雰囲気を残すまちなみは、文化財保護法による重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。島のもう一つの特徴が伝統芸能の伝承です。中でも600年以上続くといわれる種子取祭は10日間にわたって行われる竹富島最大の祭事です。この2日間で80点もの芸能を奉納する祭事は、国の重要無形民俗文化財に指定されています。

これら「沖縄の原風景」ともいえる竹富島の自然環境と文化遺産を子孫に継承していくことを目的に2002年に「NPO法人たきどうん」が発足し、2009年には全国で5番目となる自然公園法に基づく公園管理団体の指定を受けました。島の言葉で「うづくみ」と呼ばれる一致協力の中で、国立公園の管理を担うとともに伝統文化の保存と継承に取り組んでいます。



竹富島ビジターセンター竹富島ゆがふ館

2. 竹富島ビジターセンター 竹富島ゆがふ館

竹富島ビジターセンター竹富島ゆがふ館は、2003年に竹富東港ターミナルの向かいの敷地に環境省が整備した国立公園の中核施設で、国、地元自治体、島内関係者で構成する竹富島ビジターセンター運営協議会が運営し、NPO法人たきどうんが管理を請け負っています。ゆがふ館の「世界報(ゆがふ)」は、「神々から様々な恵みを賜る」という意味があり、島民と来島者が相互に理解することにより竹富島を深く知り、「島に対し畏敬の念をもって過ごしてもらえるように」との願いが込められています。

展示内容は国立公園や自然環境と伝統文化、工芸品の織物や民具類の展示のほか、竹富島を紹介する約七分間の映像「オーリトリーたきどうん」(オーリトリー=いらっしゃい)の放映や、島の伝統的な

「古謡」「昔話」「神事」「芸能」を記録した音声視聴する「テードゥンコラム」(テードゥン=竹富)などがあります。また、島で生まれ育ったお年寄りが、ガイドとしてゆがふ館に常駐し、竹富島の自然や伝統文化、芸能、歴史、民俗を紹介する「おばあガイド」事業を展開しており、展示では伝えきれない自然環境と伝統文化とのつながりを来館者に伝えていきます。



島のお年寄りへの展示解説 (写真提供:NPO法人たきどうん)

3. 自然に育まれた文化の継承

竹富島ゆがふ館では、島民と来訪者を対象に、島の伝承地を巡る学習会「竹富島の伝承地巡り」や、竹富島の生物多様性を考える学習会「ヌンゲン島のズンブン(平べったい島の知恵)」、島の神事をより理解してもらうための「祭事教室」などを定期的に開催しています。また、伝統文化の継承や広報活動の場として竹富島の手わざを継承する島民向けの「竹富島民具づくり教室」や民具のワークショップを中心とした来島者向けの「庭の口」のイベントなどに竹富島ゆがふ館が活用され、島民が一体となって自然環境の保全と伝統文化の保護に取り組んでいます。さらに、竹富島ゆがふ館の展示のうち、「テードゥンコラム」は島のお年寄りが記録された音声

を聞いて昔を懐かしみ、口頭で伝承されてきた古謡や芸能を音声で聞いて確認するなど、伝統文化の継承としても大きな役割を担っています。環境省では、外国人を含めたより多くの来訪者に体験してもらえよう、展示物のリニューアルと多言語化を2014年までに行う予定です。

今後も、島を訪れた多くの公園利用者がこの自然に育まれた竹富島の特徴的な文化を体験できるように、環境省と島のNPOと協働で取組を進めていきます。



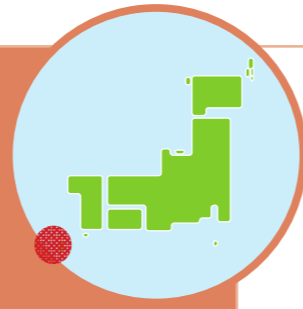
種子取祭



おばあガイドによるインタープリテーション (写真提供:NPO法人たきどうん)

大規模な海域公園地区の設定

～慶良間諸島国立公園（予定）の 新規指定に向けて～



慶良間諸島国立公園（予定）

環境省では、大規模な海域保護区を中心とした日本で最初の国立公園として、慶良間諸島国立公園の指定を進めています。

環境省は2007年から2009年にかけて、国立・国定公園総点検事業を実施しました。この事業では、全国的に自然環境（地質及び生態系）の観点から重要な地域を抽出し、既に指定されている国立・国定公園との重複状況を分析しました。その結果、国立・国定公園の新規指定や大規模な区域拡張の対象となる18候補地のひとつに、慶良間諸島沿岸海域が選定されました。

現在、指定のためのパブリックコメントを終了し、中央環境審議会自然環境部会での審議を経て2014年3月までに慶良間諸島国立公園として指定する予定です。

1. 慶良間諸島国立公園について

慶良間諸島は、1978年に、大小多数の島々がある景観が評価されて、沖縄海岸国定公園の一部に指定されました。

しかし、慶良間諸島は、島の景観だけではなく「ケラマブルー」と呼ばれる透明度の高い海、多様なサンゴが高密度に生息するサンゴ礁、ザトウクジラの繁殖海域、多島海と砂浜の景観等、沿岸から海域にかけて多様な海域景観を有していることが、我が国を代表して世界に誇りうる傑出した自然の風景地であると考えられ、国立公園に指定されることとなりました。



冬にはザトウクジラが見られ、観光資源となっている



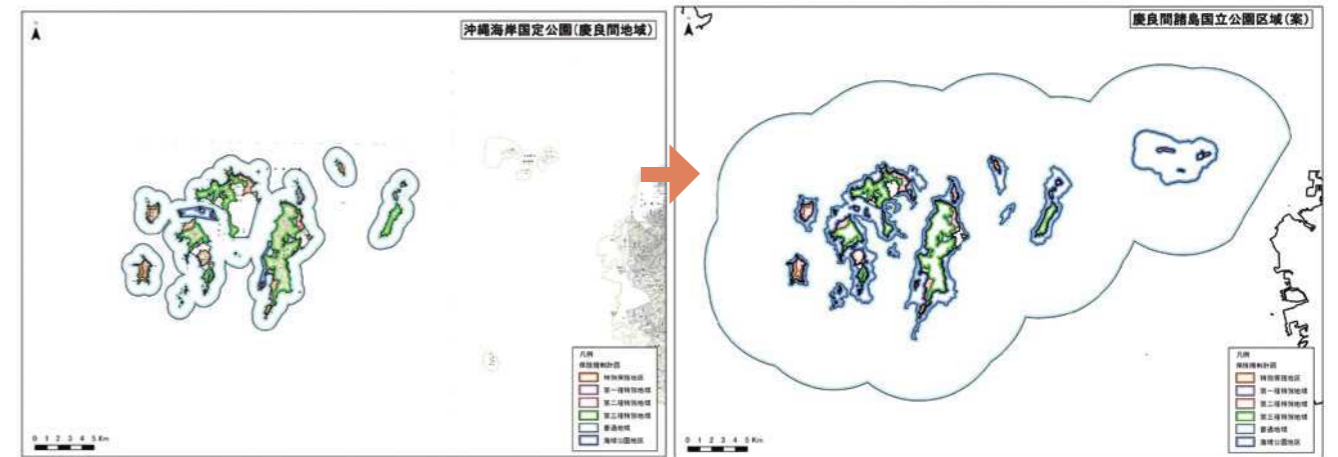
透明度の高い海とサンゴ礁
(阿嘉 北浜 (ニシハマ))

2. 大規模な海域公園地区及び公園計画

現在の国定公園は、慶良間諸島の前島から屋嘉比島及び久場島の間にある各島及びその沿岸1kmの範囲が指定（13,638ha）されています。しかし、慶良間諸島国立公園では多様な海域景観を特徴とする国立公園として指定するため、それらを適切に保全できるように、ザトウクジラの繁殖区域を含む形で公園区域（海域90,175ha）を大幅に広げました

具体的には、前島の東にあるチービシから、屋嘉比島及び久場島の間にある各島及びその沿岸7kmの範囲を国立公園として指定する予定です。更に、サンゴが高密度に発達し、多種多様な魚類が生息するため、特定の動植物の捕獲・殺傷等を規制する海域公園地区の指定も大幅に増やすこととしました。

現在の国定公園では、座間味島及び渡嘉敷島の地先にそれぞれ1ヶ所ずつ、合計約260haの海域公園地区が指定されていますが、慶良間諸島国立公園では、公園区域内の各島の周り水深30m以浅を原則として海域公園地区に指定することで、合計約8,300ha（約32倍）の大規模な海域公園となります。



沖縄海岸国定公園（慶良間諸島地域）

慶良間諸島国立公園
(公園区域を各島及びその沿岸から7kmまで拡張)

3. 海域公園地区における指定動植物

サンゴと多種多様な魚類を保全するため、次の観点で指定動植物に指定し、海域公園地区での捕獲・殺傷を規制することとしています。

- ・ 現行の沖縄海岸国定公園で指定されている種（主に魚類）
- ・ 造礁サンゴ、ソフトコーラル類
- ・ 観賞用等の目的で乱獲によって数が減るおそれのある種



渡嘉敷島

4. 大規模な海域公園地区の管理

慶良間諸島では、多様なサンゴが高密度に生息するサンゴ礁の保全が特に重要です。2001年にはオニヒトデの大量発生によってサンゴは壊滅的な被害を受けましたが、地元の関係者による献身的な駆除活動により危機を脱し、現在は海域全般にサンゴの回復が見られます。

更に、シュノーケリングやスキューバダイビングがサンゴの保全に悪影響を与えないよう、適正な

利用を推進するため、座間味村と渡嘉敷村に「エコツーリズム推進法」に基づく協議会を立ち上げ、「慶良間地域エコツーリズム推進全体構想」を作成し、2012年6月に国の認定を受けました。

大規模な海域公園地区の保全のための対策の実施や適正利用の推進は、国が自ら行うだけでなく、地元関係者や自治体との協働により進めることが重要です。

環境省自然環境局



自然環境保全関連指定地域図

● 国立公園 ● 国定公園

- | | | |
|------------|-------------|-------------|
| 1 利尻礼文サロベツ | 1 磐梯別天売焼尻 | 29 三河湾 |
| 2 知床 | 2 網走 | 30 鈴鹿 |
| 3 阿寒 | 3 ニセコ積丹小樽海岸 | 31 室生赤目青山 |
| 4 釧路湿原 | 4 日高山脈襟裳 | 32 琵琶湖 |
| 5 大雪山 | 5 大沼 | 33 丹後天橋立大江山 |
| 6 支笏洞爺 | 6 下北半島 | 34 明治の森箕面 |
| 7 十和田八幡平 | 7 津軽 | 35 金剛生駒紀泉 |
| 8 三陸復興 | 8 早池峰 | 36 氷ノ山後山那岐山 |
| 9 磐梯朝日 | 9 栗駒 | 37 大和青垣 |
| 10 日光 | 10 南三陸金華山 | 38 高野龍神 |
| 11 尾瀬 | 11 蔵王 | 39 比婆道後帝釈 |
| 12 上信越高原 | 12 男鹿 | 40 西中国山地 |
| 13 秩父多摩甲斐 | 13 鳥海 | 41 北長門海岸 |
| 14 小笠原 | 14 越後三山只見 | 42 秋吉台 |
| 15 富士箱根伊豆 | 15 水郷筑波 | 43 剣山 |
| 16 中部山岳 | 16 妙義荒船佐久高原 | 44 室戸南海岸 |
| 17 白山 | 17 南房総 | 45 石鐘 |
| 18 南アルプス | 18 明治の森高尾 | 46 北九州 |
| 19 伊勢志摩 | 19 丹沢大山 | 47 玄海 |
| 20 吉野熊野 | 20 佐渡弥彦山 | 48 耶馬日田英彦山 |
| 21 山陰海岸 | 21 能登半島 | 49 吉岐対馬 |
| 22 瀬戸内海 | 22 越前加賀海岸 | 50 九州中央山地 |
| 23 大山隠岐 | 23 若狭湾 | 51 日豊海岸 |
| 24 足摺宇和海 | 24 ハヶ岳中信高原 | 52 祖母嶺 |
| 25 西海 | 25 天竜奥三河 | 53 日南海岸 |
| 26 雲仙天草 | 26 摺鉢関ヶ原養老 | 54 奄美群島 |
| 27 阿蘇くじゅう | 27 飛騨木曽川 | 55 沖縄海岸 |
| 28 霧島錦江湾 | 28 愛知高原 | 56 沖縄戦跡 |
| 29 屋久島 | | |
| 30 西表石垣 | | |

● 原生自然環境保全地域

- | | | |
|----------|--------|----------|
| 1 遠音別岳 | 1 大平山 | 6 利根川源流部 |
| 2 十勝川源流部 | 2 白神山地 | 7 笹ヶ峰 |
| 3 大井川源流部 | 3 早池峰 | 8 白髪岳 |
| 4 南硫黄島 | 4 和賀岳 | 9 裾尾岳 |
| 5 屋久島 | 5 大佐飛山 | 10 崎山湾 |

● 自然環境保全地域

◆ 生息地等保護区

- | | | |
|------------------|--------|----------|
| 1 羽田ミヤコタナゴ | 1 大平山 | 6 利根川源流部 |
| 2 北岳キタダケソウ | 2 白神山地 | 7 笹ヶ峰 |
| 3 善王寺長岡アベサンショウウオ | 3 早池峰 | 8 白髪岳 |
| 4 大岡アベサンショウウオ | 4 和賀岳 | 9 裾尾岳 |
| 5 山迫ハナシノブ | 5 大佐飛山 | 10 崎山湾 |

■ 国指定鳥獣保護区

- | | | |
|-------------|------------|-------------|
| 1 浜崎クッチャロ湖 | 29 大山上池・下池 | 57 大山 |
| 2 サロベツ | 30 大鳥朝日 | 58 鹿久尾島 |
| 3 天売島 | 31 渡良瀬遊水地 | 59 剣山山系 |
| 4 宮島沼 | 32 谷津 | 60 石鐘山系 |
| 5 大沼 | 33 砥苗島 | 61 西南 |
| 6 瀧沸湖 | 34 大野原島 | 62 沖ノ島 |
| 7 知床 | 35 小笠原諸島 | 63 伊奈 |
| 8 野付半島・野付湾 | 36 西之島 | 64 和百干潟 |
| 9 風蓮湖 | 37 北硫黄島 | 65 枇都島 |
| 10 駒ヶ野・碓氷 | 38 鳥島 | 66 荒尾干潟 |
| 11 ユルリ・モユルリ | 39 南鳥島 | 67 男女群島 |
| 12 大黒島 | 40 小佐渡東部 | 68 出水・高尾野 |
| 13 釧路湿原 | 41 七ツ島 | 69 霧島 |
| 14 大雪山 | 42 福島潟 | 70 草垣島 |
| 15 ユトナイ湖 | 43 瓢湖 | 71 湯湾岳 |
| 16 下北西部 | 44 佐瀧 | 72 やんばる(安田) |
| 17 小湊 | 45 浅間 | 73 やんばる(安波) |
| 18 十和田 | 46 北アルプス | 74 屋我地 |
| 19 白神山地 | 47 白山 | 75 漫湖 |
| 20 大瀧草原 | 48 片野鴨池 | 76 与那覇湾 |
| 21 森吉山 | 49 藤前干潟 | 77 地間 |
| 22 日出島 | 50 紀伊長島 | 78 仲の神島 |
| 23 三貫島 | 51 大台山系 | 79 名蔵アンバル |
| 24 伊豆沼 | 52 浜甲子園 | 80 西表 |
| 25 蕪栗沼・周辺水田 | 53 冠島・斎島 | 81 与那国 |
| 26 化女沼 | 54 円山川下流域 | 82 大東諸島 |
| 27 仙台海浜 | 55 中海 | |
| 28 最上川河口 | 56 宍道湖 | |

ラムサール条約登録湿地

*ラムサール条約登録湿地の対象地域は、国指定鳥獣保護区等の一部又は全部となっています。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 クッチャロ湖 | 24 谷津干潟 |
| 2 サロベツ原野 | 25 立山弥陀ヶ原・大日平 |
| 3 雨竜沼湿原 | 26 片野鴨池 |
| 4 宮島沼 | 27 中池見湿地 |
| 5 大沼 | 28 三方五湖 |
| 6 ユトナイ湖 | 29 東海丘陵湧水湿地帯 |
| 7 瀧沸湖 | 30 藤前干潟 |
| 8 野付半島・野付湾 | 31 琵琶湖 |
| 9 風蓮湖・春国谷 | 32 円山川下流域・周辺水田 |
| 10 駒ヶ野・碓氷 | 33 串本沿岸海域 |
| 11 厚岸湖・別当辺牛原 | 34 中海 |
| 12 釧路湿原 | 35 宍道湖 |
| 13 阿寒湖 | 36 宮島 |
| 14 仏沼 | 37 秋吉台地下水系 |
| 15 伊豆沼・内沼 | 38 くじゅう坊ガツル・夕原湿原 |
| 16 蕪栗沼・周辺水田 | 39 荒尾干潟 |
| 17 化女沼 | 40 菟牟田池 |
| 18 大山上池・下池 | 41 屋久島永田浜 |
| 19 瓢湖 | 42 漫湖 |
| 20 佐瀧 | 43 慶良間諸島海域 |
| 21 尾瀬 | 44 久米島の深沢・湿地 |
| 22 奥日光の湿原 | 45 与那覇湾 |
| 23 渡良瀬遊水地 | 46 名蔵アンバル |

● 世界自然遺産地域

- | |
|--------|
| 1 知床 |
| 2 白神山地 |
| 3 小笠原 |
| 4 屋久島 |

